

ハッピーフライト

特定非営利活動法人 ミランクラブジャパン
理事長 マンダール マダーブ ナラエン

2018年の新年をまたいでネパールへ帰国した。家族と会うのはもちろんのこと、ミランダルマスタリ学校訪問、地方の里子訪問を行ってきた。ネパールでも、この時季は冬ではあるが、太陽が出ている昼間はポカポカと暖かい。雨もほとんど降らない。朝夕の寒さがあるので寒暖差は要注意ではあるが、冬としては比較的過ごしやすい。

往復とも入国ルートは中国の成都経由だった。朝 8:50 成田発、成都着 13:50、その後無料送迎サービスでホテルへ。中国国際航空では中国経由で乗継便が翌日になる場合、無料で一泊分を提供してくれていた。ホテルは三星だった。成都の街を散歩し、辛くて美味しい四川料理を食べた。翌日は 9:35 成都発、カトマンズ着 10:45 だった。航空運賃は 6 万 8 千円で、年末年始は昔 18 万円近くかけて行ったのがウソのような値段だ。



機内から見えるヒマラヤ山脈



エベレスト山

このルートではこの季節、行きも帰りもヒマラヤ山脈の眺望が素晴らしくエベレストも綺麗に見ることができる。万年雪の真っ白な山々が眼下に連なる。東はカンチャンジャンガ、次にエベレストが見え、カトマンズからも近くに見えるランタン、次にガネッシュヒマール、マナスル、マチャプチャレ、アンナプルナ山脈と出現する。普通では絶対に行けない場所、神々が住む場所、この感動は何ともいえない幸せをもたらしてくれる。

私はこのフライトでは必ず山側の窓際を予約する。行きには隣に座った中国人男性に山の写真を頼まれ撮ってあげた。彼はエンジニアでネパール好きの 3 回目の旅行、今回はポカラへも行くそうだ。帰りも隣は中国人女性の二人連れだった。この 4、5 年はネパールへの中国人旅行者が増えている。

以前ネパールのマウンテン・フライトでエベレストを見るための遊覧飛行に参加したことがあった。今回のフライトで、その時の景色を思い出していた。マウンテン・フライトはカトマンズから約 1 時間の遊覧飛行で 195 ドルする。それが普通に日本ネパールを往復するだけで二度も見られるとは、なんともラッキーなことだろう。MCJ 創立 30 周年を迎える今年、または来年には里子訪問ツアーを予定しているので、今回のフライトは候補の参考になるかもしれない。

到着して翌日の 2017 年 12 月 30 日、ミランダルマスタリ学校のピクニックに参加した。カトマンズから約 25 km のトカ村にあるトカシヴァプリビレッジリゾートで行われた。ここは、以前はシヴァプリという山だったが、最近開発されカトマンズから人気のピクニックエリアとなっている。全教職員とカブレスタリ地域の教育委員や父母代表も参加した。

青空の下、皆でお喋りしながらの昼食会、その後ビンゴゲーム、日本のすいか割のような遊びで盛り上がった。歌や踊りも披露され楽しく有意義な親睦を図ることができた。そして今後の学校運営に関しても話し合うことができた。



リゾート地入口のチャンドーソリ女神



屋外でビュッフェ形式のピクニック



ラミタ (左) とスミトラ (右)



皆でゲーム大会



ピクニック参加者

今回のもう一つの目的は私たちが支援しているラメチャップ郡の里子に会いに行くことだった。訪問目的の第一は里子に会うことだったが、MCN ラメチャップ支部長から職業訓練の依頼もあったからだった。2017年12月31日大晦日の日にMCNのアマル・マリ副会長、サガール会計担当とラメチャップ郡のブペンドラ・パクリンコーディネーターとカトマンズを出発した。

翌日は元旦であったが、ネパールでは特別なことではない。ネパールのお正月は陰暦に基づくビクラム歴で西暦の4月15日前後に当たる。そのため元旦でさえも通常の生活のままである。しかし外国人観光客の多い場所やホテルではお正月のためのイベント等で賑わう。

カトマンズからドゥリケルまでは以前から道路が整備されていて、その先ジャナクプールまでは日本の援助で作られた綺麗な道が続いている。それはラメチャップの郡庁所在地の近くを通っている。

朝7時にMCN事務所を出発、約150km先のラメチャップ郡庁所在地であるマンタリに着いたのは11:40頃だった。まずは昼食を取り、その後、約1時間半かけて里子のいるナグダハ村へ向かった。村への道はデコボコの山道、普通乗用車で行くのは無理で、そのためカトマンズから四駆を運転手付きでチャーターしていた。そこからはラメチャップ支部長も一緒だった。

村にある事務所で5名の里子たちと母親たちが待っていてくれた。私たちが到着すると歓迎の花輪をかけてくれ、子供たちの紹介をしてくれた。教育の大切さを話し、支援が確実に届いているのを確認した。ある母親は2015年4月の地震で家が壊れ財産も失い、一時子供を学校へ行かせるのは諦めようかと思ったと話した。幸いミランクラブからの支援があったので、今はそんなことにならなくて良かったと感謝していた。里子たちに将来の希望を聞くと先生や医者になり村のために働きたいと語った。里子たちの将来に期待したいものである。

帰宅は夜中になってしまった。



畑仕事をする祖母を手伝う里子



里子たち(右2人)



里子たち



村での住まい

2018年1月4日ダルマスタリ学校を訪問した。その日は教育省から1名と地域の教育委員1名が来て10+2への移行手続きについての説明があった。その後、職員会議に参加した。議題は教育方針、教育の質の向上、学校設備の問題、教員数の確保等が話し合われた。

今回は滞在期間が短かったため、沢山のことはできなかったが、里子たちの笑顔や支援の行先を見ることができ、有意義な日々となった。